

平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	日本版デュアルシステムによる中国・IT企業への再チャレンジ支援推進事業		
法人名	学校法人友幸学園		
学校名	専門学校九州テクノカレッジ		
代表者	理事長 田所 徹夫	担当者 連絡先	石井 省爾 TEL 093-561-3914

1. 事業の概要

近年、IT業界での若年早期離職者の増加が社会問題となっているが、その対策として、まずは個人の能力や職業適性を把握した上で再就職への指導を行い、社会人として必須の技術となっているコミュニケーション能力やIT業界必須のネットワーク技術やプログラミング技術の増強を図る必要があると考えた。

また、北部九州における企業の中国進出を鑑みると、中国文化の理解や中国人とのコミュニケーションスキルの習得も、再就職の一助になると思われる。

そこで、時間的制約に鑑み、ITおよび中国語関連の知識の習得を主眼とした、日本版デュアルシステムを活用して実践力を身に付けることができるカリキュラムの開発を行い、もって若年者の再就職を支援することを目的とする事業を行った。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

(1)講座修了状況

- ・受講生17名に対し、講座修了生7名。

途中退所10名のうち、2名は就職、8名はその他理由(体調不良、講座内容について行けない等)によって途中退所となった。

(2)就職状況

・講座修了生7名中6名が就職決定(3月17日現在)となっており、就職率86%を達成したことは成果があったと考えられる。また就職6名中3名は実習先への就職となり、市内中小企業への人材提供を図ることができた。

- ・IT企業への就職という観点からは、7名中1名となっており、受講生の就職志向は事務・医療が多かった。

②事業により得られた成果

(1)平成19年9月～平成20年3月に、実施委員会(3回)・教材開発分科会(5回)・実証講座分科会(5回)・カウンセリング分科会(3回)を開催し、「日本版デュアルシステムによる中国・IT企業への再チャレンジ支援プログラム」を開発した。

(2)実証講座「目指せ中国進出 目指せIT企業」講座の受講生を募集し、17名の受講生が集まった。17名中10名は途中退所であったが、講座修了生7名中6名が就職決定(3月17日現在)しており、うち3名は実習先への就職であった。

(3)実証講座において「コンピュータリテラシー」テキスト、「中国語会話」テキスト、「ライフキャリアカウンセリング」テキストが作成された。

(4)上記「コンピュータリテラシー」テキストの効果としては、情報処理検定(J検定)を受験し、受講生(修了生)7名全員が合格した。

③今後の活用

(1)本事業で得た「ライフキャリアカウンセリング」の普及およびテキストの普及を図る。

(2)若年離職者に対するキャリアカウンセリングに関する講座の実施を図る。

また「ジョブ・カード」の導入による「日本版デュアルシステム」の効果的な運用を図る。

(3)短期有料講座(6ヶ月)を開き、中国・IT人材の育成に努める。出来れば、中国進出するIT企業への就職を狙う。

④次年度以降における課題・展開

(1)受講生募集について

今回、実証講座の受講生募集に際しては、チラシ配布やHPへの掲載で行ったが、一般に幅広く募集したため、就職志向がバラバラとなり、結果IT企業への就職が1名に止まった。予め募集の際に、IT企業への就職志向等を面接で把握し、真にIT企業への就職希望者を募る必要があると考えられる。

また、中国語の習得には時間を要するので、予め中国語を習得している集団(例えば大学の外国語学部中国語専攻科など)へのアプローチにより募集を図った方がよいと考えられる。

(2)就職状況について

今回の講座修了生のうち1名がIT企業への就職であった(5名は他業種)。しかし、実習先への就職が3社あり、今後は受入企業開拓の必要があると考えられる。

また就職者1名は税理士事務所への就職であった。これは卒業生の人脈から企業実習の受入が可能となった。こと就職に関しては、本人の希望する企業への就職であり、受講生の満足度は高かった。このような事例を増やしていく方策の開発が必要である。

3. 事業の実施に関する項目

①カリキュラムの開発

本事業において、「日本版デュアルシステムによる中国・IT企業への再チャレンジ支援プログラム」に基づき、IT基礎知識として「コンピュータリテラシー」カリキュラム、中国語・中国文化理解として「中国語会話」カリキュラム、キャリアカウンセリングとして「ライフキャリアカウンセリング」カリキュラムを作成した。

②実証講座

(1)テーマ:「目指せ中国進出 目指せIT企業」 (2)定員:20名

(3)期間:平成19年10月29日～平成20年2月9日

(4)受講生の属性・受講者数:

No.	氏名	性別	年齢	居住地	就職状況	修了
1	H. J	男	24	北九州市	県内企業に就職	修了
2	H. R	女	30	北九州市	—	途中退所
3	H. Y	男	27	北九州市	—	途中退所
4	I. I	女	30	北九州市	県内企業に就職	修了
5	K. Y	女	25	北九州市	県内企業に就職	修了
6	M. A	女	27	北九州市	県内IT企業に就職	修了
7	M. A(2)	女	31	北九州市	—	途中退所
8	S. K	男	31	北九州市	—	途中退所
9	S. N	女	25	北九州市	—	途中退所
10	S. Y	女	19	行橋市	—	途中退所
11	T. K	女	30	北九州市	—	途中退所
12	T. M	女	25	中津市	就職活動中	修了
13	T. R	女	32	北九州市	県内企業に就職	修了
14	T. T	女	33	北九州市	—	途中退所
15	U. S	女	23	北九州市	—	途中退所
16	Y. D	男	25	北九州市	—	途中退所
17	Y. T	女	21	北九州市	県外企業に就職	修了

(5)場所:座学(ガイアサポートエデュケーションセンター)、職場実習(市内企業各所)

(6)受講生の反応

パソコンに対しての苦手意識が無くなり、自信がついた。

中国語は難しかった。なかなか発音が出来ない。

セキュリティは難しかったが、仕事には役に立ちそう。

Javaは、自分が打ち込んだものが動くとき嬉しかった。

難しい専門用語ばかりで戸惑いました。

中国のことをここまで詳しく習ったのは初めてだった。

専門職への就職希望だったので、これから頑張ろうと思います。

今回勉強が出来て、知識や技能が向上したので、良かった。

無事に終わることが出来て良かった。

職場実習でパワーポイントでの企画書作成は勉強になった。

事務処理は意外と大変でした。

③その他

事業の特色・工夫した点

- ・IT基礎知識に関しては、IT企業のエンジニアが講師を務め、中国語知識に関しては、中国人が講師を務めた。
- ・職場実習に関しては、IT企業の他、受講生のカウンセリングを行う中で各個人の就職志向を鑑みながら実習先の開拓を行い、希望職種への実習を行うことができた。
- ・キャリアカウンセラーによるサポートでは、GATBを活用しながら、受講生の人生設計も視野に入れたカウンセリングを行うことができた。
- ・地元企業において中国語が必要とされる企業(1社)への職場実習を行うことができ、次年度以降への繋がりも構築できた。

④参考資料

実証講座



講演会



職場実習



受講生募集チラシ(第1回目)



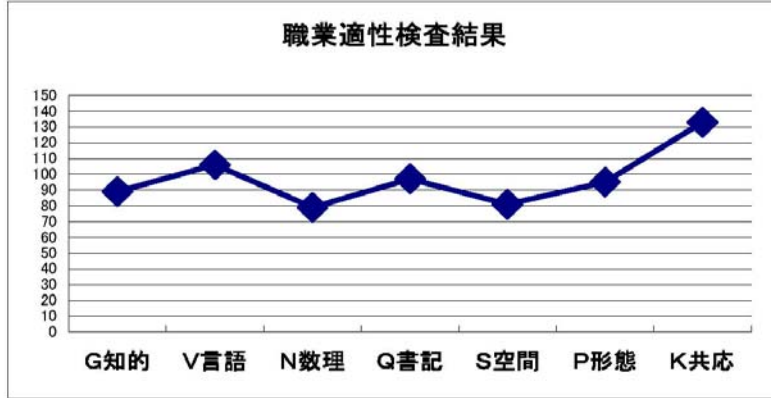
受講生募集チラシ(第2回目)



職業適性検査結果票

氏名(I. I)

	G知的	V言語	N数理	Q書記	S空間	P形態	K共応
適正性能 得点	89	106	79	97	81	95	133
順位	5	2	7	3	6	4	1



機能	適性能	内容	作業の例
認知機能	G 知的能力	一般的理解力、推理、判断力、応用力	状況を分析判断する、工夫したり、新しいアイデアを出す
	V 言語能力	言語的な理解力、文章読解、表現力	文章を読み書きする、言葉で伝達したり、説明を理解する
	N 数理能力	数的な処理能力、計算力、数的推理力	各種計算、各種集計作業、数量管理・分析、金銭管理などを行う
	Q 書記的能力	文字、記号などのデジタルデータの比較弁別、一般的な注意力	印刷物の校正、帳簿の記載やチェック、表の作成作業などを行う
知覚機能	S 空間判断力	立体的、構造的な理解力 図面から実物をイメージする力	設計図を理解したり作成する、造形的な作業を行う
	P 形体知覚	形、図形などイメージデータの比較弁別力	裁断、切断、切削、取付け、張付け、接合、組立等の作業を行う
運動機能	K 運動共応	目と手の共応、迅速で正確な動作を行うコントロール力	キーボードの作業、素早い繰返し作業を行う

職場実習日誌例

職場実習日誌

日付	平成 20 年 1 月 16 日 (水)	氏名	M. A
午前	・オーバーチュアの運用について (検索エンジンでの低コストかつ実用的な運用の仕方について、説明を受けました。実際の運用画面を見ながら、どのキーワードがヒット率がよくコスト削減できるか考えて、見積もりを出しながら試してみました。)	午後	・引き続きオーバーチュアの運用の仕方について (手引書を見ながら自分でできるようにいろいろ試してみましたが、なかなかうまくいかず、苦勞しました。)
<p>(感想・反省点)</p> <p>今まで検索サイトがこういう方法で運営されていたことを、全く知りませんでした。最初は全く何をしたらいいのかわからなかったけど、1日かけてなんとなくですが理解することができました。ひとえにパソコンといっても色んな使い方やいろんな仕事があるのだと改めて思いました。</p>			

職場実習日誌

日付	平成 20 年 2 月 1 日 (金)	氏名	Y. T
午前	今日は朝からシュミレーションプログラムの作成をするためマニュアルの本を読みました。 ;、->、AND、OR、ANI、ORI などが出ました。	午後	午後はメモリ構成のファイルを使って実際にプログラムを作成しました。 430も項目があつて1日、2日じゃ終わりそうもないです。
<p>(感想・反省点)</p> <p>プログラムを作るのは大変です。 記号や数字ばかりで打ち間違えを してしまいそうです。明日もがんばります。</p>			